



高千穂の夜神楽は、町内19の集落で行われ、秋の収穫が終わった11月から翌年の2月にかけて、氏神様を神楽宿と呼ばれる里の家にお招きし、夕方から翌日の昼頃までかけて夜を徹し三十三番の神楽が奉納されます。

神楽の舞人は「ほしゃどん」と呼ばれます。神面は「面（おもて）様」と言われ、神そのものを表し、神話にちなんだ劇的な舞です。面様をつけない舞は「素面（すおもて）舞」と言われ、清祇い・鎮魂・豊穰祈願・子授安産等の願神楽として奉納されます。一年（ひととせ）に一度、山間いで生きる高千穂の里人は、神々と神遊びを行うのです。

本日公演する「秋元神楽保存会」は、町の中心地から約12kmのところのところに位置し、毎年11月、最終土曜日に夜神楽を奉納します。最近では、秋元神社が鬼門の方角を向いていることから、パワースポットとして有名になり、参拝者の人気を集めています。

第1部 16:40 ↓ 17:20	彦舞 (ひこまい)	先導神である猿田彦命の舞。神話にちなんだ鼻の高い赤面で、天孫降臨の天浮橋に見立てた、島と呼ばれる一斗榊の周りを廻り、榊の上に乗る太玉串と鈴を持ち祇舞です。
	神降し (かみおろし)	素面の三人舞。神庭を祇い清め、諸々の神を招く舞です。
	御身体 (ごしんたい)	別名「国産みの舞」ともいわれ、イザナギ・イザナミの尊（みこと）2神が、新米で出来た酒を仲良く飲みます。これは、豊穰、子授安産、夫婦円満、里づくりの祈願が込められています。ほろ酔いになった神が客席に舞い出し、観客とふれあいます。

第2部 18:45 ↓ 19:25	太力雄 (たちからお)	天照大神（あまてらすおおみかみ）が弟のスサノオの悪行に困り果て、天岩戸に隠れたので、太力雄が天岩戸の場所を探す舞です。
	鈿女 (うずめ)	天岩戸の場所がはっきりしたので、天鈿女命（あめのうずめのみこと）が天岩戸の前で天照大神を誘い出そうとする舞です。
	戸取 (ととり)	手力雄命が天岩戸を開く力強い舞です。「一方の戸は、伊勢の国山田が原へ、もう一方の戸は日向の国、櫛ヶ原にぞ着き賜う」と歌が入ります。
	山森 (やまもり)	四人舞で山の幸を与える舞。山の神が2頭のシンを連れ出します。シンが山の神から解放され、山の神の使いとして観客の頭を囓んでまわります。
	繰降し (くりおろし)	客席の上に張られた綱を持って舞います。観客は、この綱を握り神々と一体となって諸々の祈願をします。

～ ステージ スケジュール ～

※都合により、演目に変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

時刻	出演時間	演目
16:00～	10	開演・主催者あいさつ
16:10～16:30	20	中郷中学校吹奏楽部 with ほんちくん
16:30～16:40	10	幕間
16:40～17:20	40	高千穂神楽【第1部】
17:20～17:30	10	都城市長あいさつ
17:30～17:50	20	御神渡り市 出店者PRタイム
17:50～17:55	5	幕間
17:55～18:15	20	高野原正調安久節保存会
18:15～18:20	5	幕間
18:20～18:40	20	津軽三味線 石井流家元 石井秀弦
18:40～18:45	5	幕間
18:45～19:25	40	高千穂神楽【第2部】終了後・せんぐまき
19:30～	-	閉演
19:40～20:00	20	打ち上げ花火

興玉神社



内神殿(厨子)が昭和58年6月、国の重要文化財に指定された。これは、応永6年(1399年)の製作で現在南九州最古の建造物とされている。

興玉神社内神殿は国指定重要文化財。内神殿は、現在地より1キロメートル東方にあった正応寺薬師堂の厨子(ずし)と伝えられ、明治初年の廃仏毀釈(はいぶつきしゃく)のとき、住民の機転で神社の内神殿として転用保存されてきた。内神殿は、創建時の棟木(歴史資料館展示)が残っており、宮崎県最古の建造物である。その様式は、禪宗様(唐様)といい禪宗とともに寺院建築の新様式として、中国大陸から鎌倉時代に伝来し、日本全土に広まっている。